

いまがわかる

ニュースあれこれ

最低賃金、全国平均930円に
上げ幅28円で過去最大

厚生労働省の審議会は14日、最低賃金を全国一律で28円引き上げ、全国平均で930円とする目安をまとめました。1978年度にいまの制度が始まってから、最大の上げ幅です。コロナ禍の中、去年は1円の引き上げでした。今回の案がそのまま実現すれば、全都道府県の時給が初めて800円を上回ります。



厚生労働省=東京都千代田区 ©朝日新聞社

最低賃金 やとい主が働く人に最低限はらわなければならない、1時間あたりの賃金です。厚生労働省の審議会の目安を参考に、都道府県ごとに決めます。

EU、ガソリン車販売禁止へ
2035年に 温室効果ガス減らすため

ヨーロッパ連合(EU)の委員会は14日、ガソリン車の新車販売を、2035年に事実上、禁止する案を発表しました。ガソリンと電気の両方で動くハイブリッド車もふくみます。EUの去年の自動車市場は約1千万台で、中国とアメリカに次ぐ規模。そのうち1割を日本のメーカーがしめます。



電気自動車に充電する人=2015年、ドイツ ©朝日新聞社

EUは二酸化炭素など温室効果ガスの排出を、30年には1990年に比べて55%減らす考えです。今回、「脱炭素」が進んでいない国からの輸入品に課金する案も示されました。

日付は現地時間。記事の一部は朝日新聞社の提供です



リュウキュウアユの生息する川で整地作業をする住用小の児童たち=住用小小学校提供

小学生も熱心な活動

奄美大島(鹿児島県)の自然を守ろうと、小学生も、海や川の生き物を守る取り組みをしています。(近藤理恵) 1面に関連記事



リュウキュウアユ
川で観察、産卵のために整地

奄美市住用町は、マンガロープ原生林もある自然豊かな地区です。住用小小学校(児童数19人)は、絶滅危惧種の魚「リュウキュウアユ」の保護活動をしています。奄美大島だけに生息するアユで、学校近くの役勝川や住用川などが主な生息地。本州のアユよりうろこが大きく、ずんぐりとした体形が特徴です。かつては沖繩にもいましたが、1970年代後半に絶滅してしまいます。2020年の調査で、

奄美市立住用小

奄美大島の個体数はおよそ1万7千匹です。

久永浩幸校長先生によると活動は2006年から始まったそうです。川で観察したり、講師を招いて学習会を開いたりしています。繁殖期をむかえる前の秋には、小さい石に卵を産み付けるアユが産卵しやすいように大きな石をどける整地活動などを行っています。

市田立樹さん(5年)は「川の中にいるリュウキュウアユは、光が当たってきらきらしてきれいでした。整地作業をして協力したい」と言います。重井美心都さん(5年)は「沖繩では絶滅してしまったので、島のリュウキュウアユを守りたい。世界自然遺産に登録されたら、観光客は増えると思うけれど、川にゴミを捨てないでほしいです」。

リュウキュウアユの研究をしている鹿児島大学准教授の久米元さんによると、環境は改善しているそうです。「リュウキュウアユを守るためには、川だけでなく、森や海も保全していかなければなりません。そして、地元の人がリュウキュウアユの貴重さを知ることが何より大切。特に子どもたちの役割に期待しています」

ウミガメ 卵を保護、ふ化させ海にかえす



奄美市立屋仁小

奄美市立屋仁小学校(児童数19人)は2012年から、学校の近くにある屋仁海岸で産卵されたウミガメの卵の保護をしています。奄美大島では、毎年5、7月ごろにウミガメが上陸して、砂浜に産卵します。卵は砂の中で温められ、およそ60日後にふ化します。しかし、屋仁海岸は砂浜が

せまく、産卵しても海にかかってしまうため、ふ化にくい環境にあります。そこで奄美市から特別な許をもらい、校内にふ化場を設置。ウミガメの卵が見ると、海岸から卵をふ化場に移動させ、育てます。去年は産卵がなかったのですが、これまでに合計1119個の卵を保護し、864匹ふ化させました。今年も5月7月に産卵があり、計353個の卵を